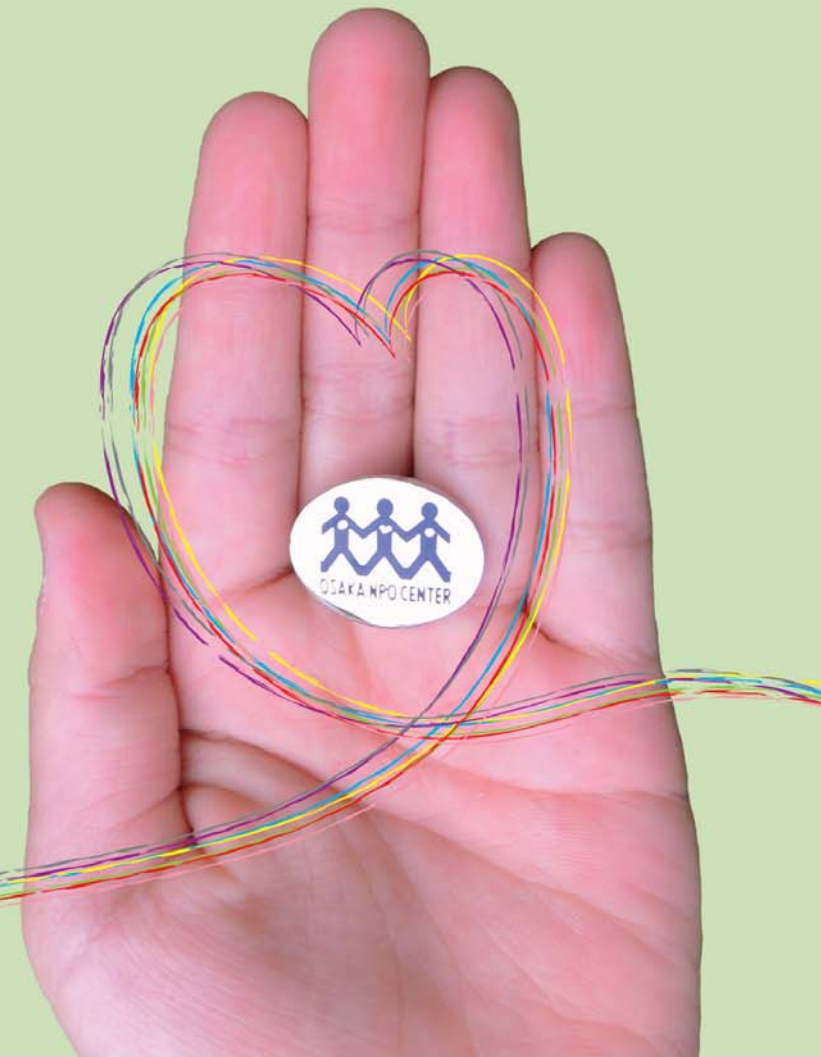


# 20<sup>th</sup> Anniversary

認定特定非営利活動法人 大阪NPOセンター  
20周年記念誌

 認定特定非営利活動法人  
大阪NPOセンター



挨拶

1995年に起きた阪神・淡路大震災の体験から、自らの暮らすまちや社会は、自らが責任を持って良くしていかなければならないという想いを強く抱き「政・官・財」の55年体制を変革し、「市民・行政・企業」の市民社会の実現を目指して設立した大阪NPOセンターは本年20年を迎えることが出来ました。

NPOが活躍することのできる環境や社会基盤の整備、NPO自身の体質強化や法人格取得のサポート、そして「市民・行政・企業」とNPOとのネットワークの構築など市民社会の実現のための基盤整備に軸足を置いたのが最初の10年でした。

そして、NPO法人の増加も落ち着き、ソーシャルビジネス(SB)やコミュニティビジネス(CB)、そして企業のCSRなどの社会的課題の解決のための活動が多様化するなか、CSO(Civil Society Organization)という概念のもと様々な組織のサポートへ対象を拡げてきました。

10周年を記念して、企業の非課税寄付枠を有効に活用し、CSOの活動を支援する「志民ファンド」を設立し、10年間で6,000万円を超えるファンドレイジングを実現しました。

このように私たちの活動の範囲や対象が徐々に変化していくなか、常に変わることなく、市民社会の実現を使命として貫いてきたことが20年の実績に繋がったと思います。

私たちは20年を機にクラウドネットワークという概念を提唱し、その実現のために「北浜サロン」構想を計画しました。CSO、行政、企業、教育機関、土業、サポーターなど多様なバックグラウンドを持った人たちが集い、知識や経験、ノウハウ、資金や労力などあらゆる経営資源が有機的に化学反応を起こし、そこから新しいものがどんどん生まれるような環境整備をしていきます。

今後とも皆様の絶大なご支援とご協力をお願いし、ともに市民社会を実現したいと思います。

認定特定非営利活動法人大阪NPOセンター  
代表理事 金井宏実



## contents.

01. 挨拶
- 03-04. お祝いメッセージ
- 05-06. センター10年間の歴史
- 07-08. センターの機能と役割
- 09-10. 座談会 サポーターインタビュー
- 11-12. CSOアワード
- 13-14. ソーシャルビジネスプランコンペ
15. 志民ファンド
16. 東日本大震災復興支援
- 17-18. 座談会 事業者インタビュー
19. フォーラム
20. 北浜サロン
21. ACCESS MAP







# 大阪NPOセンター 20th

## おめでとう!!

since 1996.11.21~

(順不同・50音順)



- 赤部 桂夫
- 秋岡 登
- 河村 晴造
- 大村 和弘
- 野村 敬
- 荒木 謙也
- 藤原 由香利
- 上野 信子
- 上野 昌也
- 江本 雅朗
- 大塚 悦賀
- 唐木 忠一
- 富田 寛司
- 鴨田 和彦
- 徳谷 章子
- 金井 孝実
- 出口 正之
- 加藤 高明
- 出口 久美
- 奥野 悟
- 野 紀三
- 岡本 元智
- 有及 美苗
- 関本 由美
- 関本 由美
- 熊野 由子
- 中尾 清
- 黒野 裕一
- 小西 登一
- 小村 利廣
- 佐々木 利廣
- 鳥田 兼雄
- 城 阪千太郎
- 下之坊 修子
- 神藤 佳浩
- 高田 成
- 角谷 禎和
- 高橋 大一郎
- 高橋 健司
- 高橋 紀子
- 横山 寛子
- 中尾 清
- 中尾 清
- 長福 洋子
- 長元 耕司
- 七森 啓太
- 難波 武史
- 新居 誠一郎
- 長谷川 惠一
- 初谷 勇
- 原田 亮啓
- 早瀬 寿
- 松本 将
- 三木 秀夫
- 道盛 正樹
- 宮寺 徹
- 八木 美江
- 山田 裕子
- 山本 由美子
- 山本 由美子

たくさんの方々との出会いがあり 20周年を迎えることができました



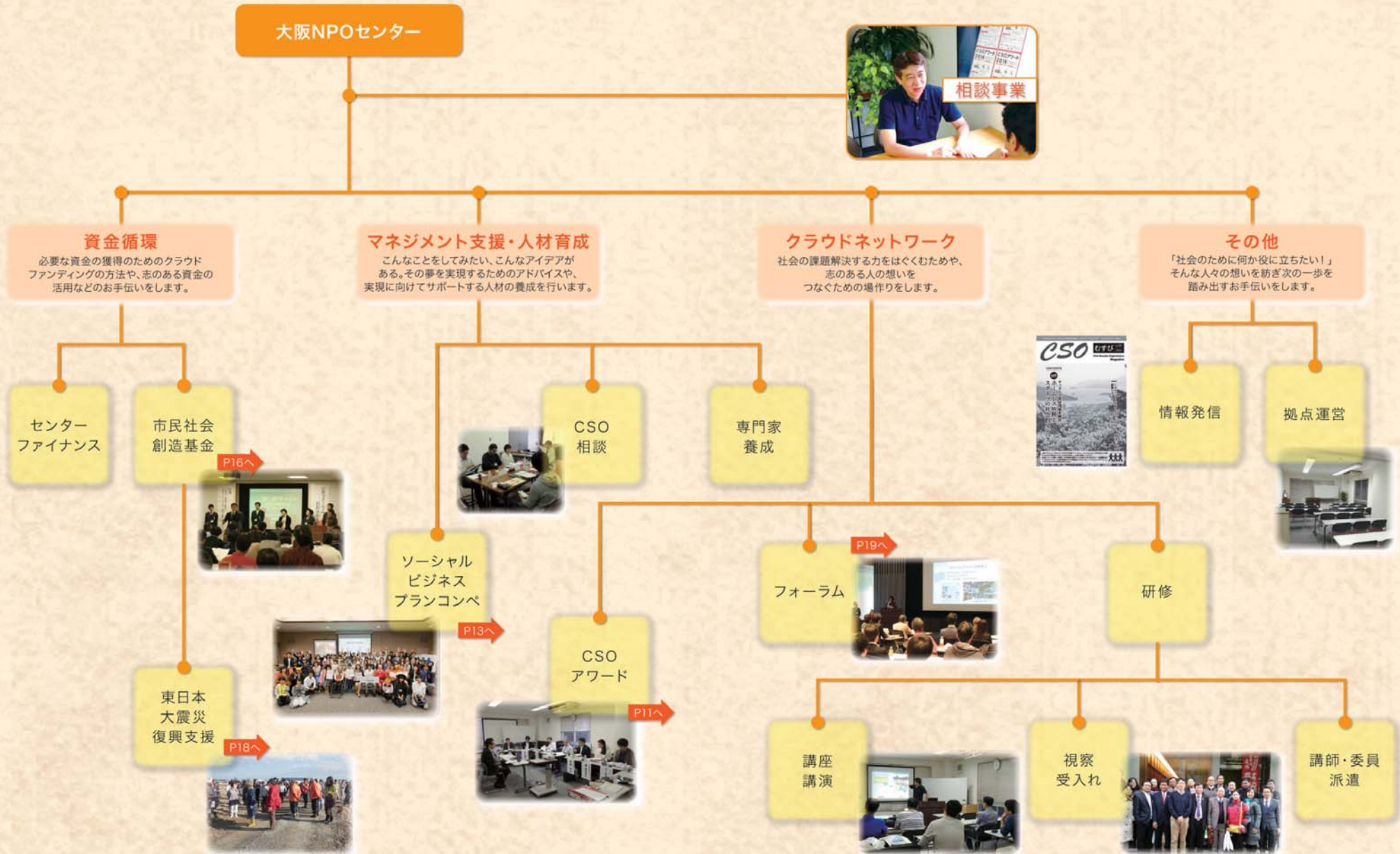




# 大阪NPOセンターの機能と役割

## 社会に活力を与えつづける人を育てます。

大阪NPOセンターは、自発的、公共的な活動を通じて、より良い社会を目指す団体をサポートしてきました。あらゆる団体・企業・行政と連携しながら、多くの社会課題の解決に取り組んでいます。





# サポーターインタビュー 座談会



「田のバトン」パーソナルアシスタント、  
中小企業診断士  
リー・ヤマナ・清実氏



ビジネスサポーターオフィスへ  
代表 中小企業診断士  
長元耕司氏



株式会社キリン堂 総務部 顧問  
島田幾雄氏

## 30周年に向けて 営利・非営利の垣根を越え、さまざまな組織をつなぐコーディネートを

大阪NPOセンターは自分の問題意識を解決するきっかけを作ってくれたところ

▷大阪NPOセンター(以下センター)と関わりを持ったきっかけを教えてください。

リー 私はバブル崩壊後の1991年に中小企業診断士として独立しました。仕事上いつも世の中の変化を観察していますが、1995年は阪神大震災やサリン事件があり、大きく社会が変わりました。成果主義やリストラ、「勝ち組、負け組」という言葉が出てきて、沈んだ世の中になっていきました。勝ち組というのは圧倒的に少ないわけです。これからは非営利の組織が経営という視点をもって社会的に機能していかないと日本は持たないという問題意識がありました。

その頃、たまたま診断士仲間が、センターがNPOの経営を支援する専門家の養成を目的とした「認定コンサルタント養成塾」を開講することを教えてくれ、センターは先見性があると思いました。NPOへの経営支援、コンサルタントが必要だという自分の問題意識とセンターのアプローチが一致したため、私は養成塾の一期生になりました。自分の問題意識を解決する手段、きっかけをセンターから提供していただいたと思います。

「社会的なことをしたい」と考え始めた世代の走り

長元 僕は就職氷河期の1996年に会社に就職しました。会社に行きながら中小企業診断士の資格を取りました。当時、「商社不要論」と言われたこともあり、会社で働いて意味があるのか、もう少し社会に何かできないのかということを考える世代の走りだった気がします。その後、「社会貢献したい」「問題解決したい」という人が集まっている政策学校に1年通いそこでビジネスや政策提言などを学びました。私は中小企業診断士という立場上、社会を変える事業を自分で興すのではなく、コンサルタントとして関わった方がいいと考えていました。

診断士の先輩からセンターがコンサルタント育成の講習をするから申し込んでみたらどうかと紹介してもらったのがセンターと出会うきっかけです。

企業の社会的責任としての取り組みがセンターと関わるきっかけに

島田 私自身は小売業で40年以上勤めてきました。大阪府が障害者雇用において工賃倍増計画をしていた時、当社でも何か応援できないかということになり、ちょうど、ある店舗の目の前にあった作業所から、商品を店頭で販売してほしいとの依頼がありました。そこで、こちらから提案し、店舗で精神障害、知的障害者が店で接客体験をする就労支援がスタートし、新聞にも取り上げて頂きました。その新聞記事を読んで、センターが見学に来られたのが、センターと出会ったきっかけです。

相談者のスタンスが変わる中、支援者にもビジネス性だけでなくソーシャル性という「新しい物差し」が必要

▷この10年で企業やNPOの相談内容や支援のあり方はどのように変化していますか？

リー 中小企業診断士として、企業とNPOの双方に関わる機会が増えていく中で、営利の世界からソーシャルビジネス的なテーマを語る人が出てきました。たとえば、「着物をリサイクルして市場に出す。その時にしたハギレで子ども服を作り、カンボジアの子ども達に送る」など、営利と非営利を同時に考えていたりします。彼らはそれなりの経済的な豊かさを得ながら、自分の大事だと思っていることで誰かの役に立てて生きているのが自分らしいと考えています。10年くらい前なら社会貢献は事

業のかたわらでという概念でしたが営利・非営利の垣根を超えたビジネスを志向する世代が出てきています。創業する人の物差し(価値観)が「社会で必要とされること」と「営利性」の両方を見据えるように変わってきているということです。サポートする人も営利・非営利の垣根を越えて新しい価値観を理解できるかが大事ですね。

長元 支援する立場の経営コンサルタントは、まだソーシャルビジネスを「福祉」だと考えています。企業の中には「何か社会に貢献したい」という相談もありますが「社会性」の捉え方は様々です。

「社会性」の垣根がなくなることが大事

リー 日本には昔から三方よしという考え方があります。今は「コミュニティビジネス/ソーシャルビジネス」という言葉で概念化して使われていますが、それもビジネスの中で10年後くらいには埋没していく可能性もあり得ると思います。社会性があるものでないと、社会が持たなくなり、ひいては企業活動ができなくなるのでないでしょうか。

長元 企業は社会の一員だという前提で商売しているので、実は企業が取り組んでいることの中にはすでに「社会性」がある。ソーシャルビジネスという言葉は要らないのではないかと思います。

企業方針に「社会性」という視点が加わり企業の価値が上がる

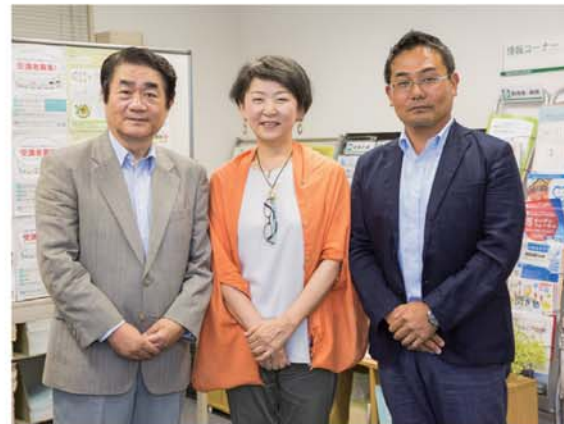
島田 当社の場合、薬局なので「健康・未病」という企業方針があり、そのことで「何か社会・地域に貢献していきたい」という発想があります。以前、店舗の周りの木を剪定してくれる業者を探していた時に、せっかくなら工賃倍増につながる作業所をお願いしようと思い、センターに相談しました。迅速に信頼できる作業所さんの情報を提供していただき、センターのネットワークの広さにとっても感心しました。当社にとっては、コストダウンと丁寧な仕事をしていただいただけでもメリットでしたが、さらに作業所に仕事を依頼したことで、地域の中で当社のファンが増えたことも良かったです。また、センターと一緒に活動することで、様々な団体と接点ができることが、当社にとっては良いことなのです。企業方針に基づいて活動してきたことに、「社会性」という視点が加わり、広範な社会的課題へのアプローチの重要性をセンターから教えてもらいました。

▷今後の展望、またセンターに期待することは何でしょうか？

コーディネートとプロデュースの力に磨きをかけて

リー 1点目は、事業者だけでなく企業や学校など層の異なる組織へアプローチして、企業ともしっかりと接点を作るといえます。

2点目は、地域で企業と市民のコーディネートをしてほしいです。働き方が変わってきて、子育てしながら地域の中で何かしたいという人も増えています。地域で活動している人を見つけ出し、センターが「お墨付き」をして企業に紹介する役割があればいいと思います。



3点目は、プロデュースです。センターのスタッフはコーディネートのだけでなくプロデュース、デザイン、コミュニケーション、人に働きかけるアウトプットの能力が高い。これらの力にさらに磨きをかけて積極的に人や組織をコーディネートして、「機会」をプロデュースする能力をもっと発揮していただく、存在感がさらに増すと思います。

この先10年を見据えた具体的なテーマやプロジェクトも

島田 企業の中には、「子どもの支援」に取り組みたいという意識が高まっています。例えば、子どもの貧困、子育ての問題は社会の問題でもあり、会社にとっても雇用している社員に関わる重要な問題です。次の世代にそれを引き継がないための支援がいると思います。大阪NPOセンターとしてもこの先10年の社会の動きを見据えたテーマを打ち出してほしいと思います。

リー 「子どもの支援」に取り組む団体は多いですが日々の活動が手一杯で視野が狭くなりがちです。センターの新たなビジョンの中から具体的なテーマやプロジェクトを設置し、活動している人たちが自分たちは親しみのない世界とつながれるような働きかけや広い視野を持てるコーディネートをしたいと思っています。

原点に立ち返り、稼げる自主事業も手がけてほしい

長元 20周年を機に、何のためにセンターは存在しているのか、センターのミッションをもっと社会に発信してほしいです。CSOという原点に立ち返り、事業のあり方や進め方を整理してほしいと思います。

リー 10年後は今まで以上に営利・非営利の垣根を越えてビジネスで対応できる部分と、徹底して社会的支援が必要な部分の両極端が際立ってくるであろうと思います。30年に向けてのセンターのビジョンを確立し、テーマ性をもって社会の変化に対応していくことが大事だと思います。



大阪NPOセンターでは、NPO法が施行される2年前の1997年、当時市民活動の発表の場が現在のように多くはない時代に「大阪NPOアワード」を創設しました。

その後、10周年を迎え、2007年に「OSAKA CSOアワード」を開催し、市民の自発的・公共的な活動により社会変革をめざす市民社会組織(CSO)を対象とする表彰事業へと形を変えながらも、多くの団体を応援してきました。

2008年から2013年にかけては、大阪商工会議所の主催する「おおさかCBアワード」と2つのアワード事業を統合し、新たに「CB・CSOアワードおおさか」として両主催者が有する支援団体のネットワークを有効活用しながら、より幅広く、かつきめ細かな支援を事業者に対して行うことが可能となりました。

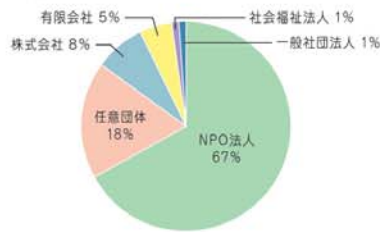
1997年の第1回大阪NPOアワードから、これまで述べ270社の企業等の皆様にご支援いただき、750団体以上のご応募をいただいています。そして、大阪NPOセンターは20周年を迎え、「CB・CSOアワード」は「CSOアワード」として生まれ変わりました。

グラフ 見る CSOアワード

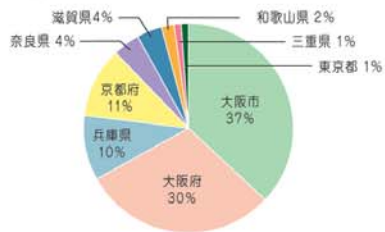
申請者の数と属性



受賞団体における法人格の割合



受賞団体における所在地の割合



アワード受賞団体における認定NPO法人の割合 (仮認定含む)



写真 見る CSOアワード 歴代の大賞団体

OSAKA NPOアワード2006



特別賞「特定非営利活動法人クリニックラウン」

CB・CSOアワードおおさか2011



大賞「特定非営利活動法人こどもコミュニティケア」

第1回OSAKA CSOアワード2007



グランプリ「特定非営利活動法人ソーシャルハウスさかい」

CB・CSOアワードおおさか2012



大賞「ドクター・オブ・ジ・アース株式会社」

CB・CSOアワードおおさか2008



大賞「株式会社マイファーム」

CB・CSOアワードおおさか2013



大賞「箱の浦自治会まちづくり協議会」

CB・CSOアワードおおさか2009



大賞「有限会社篠ファーム」

CB・CSOアワードおおさか2014



大賞「特定非営利活動法人スマイルスタイル」

CB・CSOアワードおおさか2010



大賞 ※該当なし

CB・CSOアワードおおさか2015



大賞「特定非営利活動法人どんぐりの会」

# ソーシャル ビジネスプラン コンペ

大阪NPOセンターはいち早くソーシャルビジネスの支援を実施してきました。2008年より、新たなソーシャルビジネスのプランを募集し、評価・応援するという仕組みを確立し、現在ではソーシャルビジネスの登竜門となっています。本コンペで受賞された方々が、テレビ・新聞などメディアで取りあげられ、社会から注目される事象も多くみられるようになりました。本コンペにおいて評価を受けたことが、その後の事業遂行へのモチベーション向上につながっています。副賞だけではなく、選考過程において大阪NPOセンターの認定コンサルタントが入り申請プランのブラッシュアップサポートを行うことが特徴的です。

## グラフ 見る ソーシャルビジネスプランコンペ

申請者の数と属性



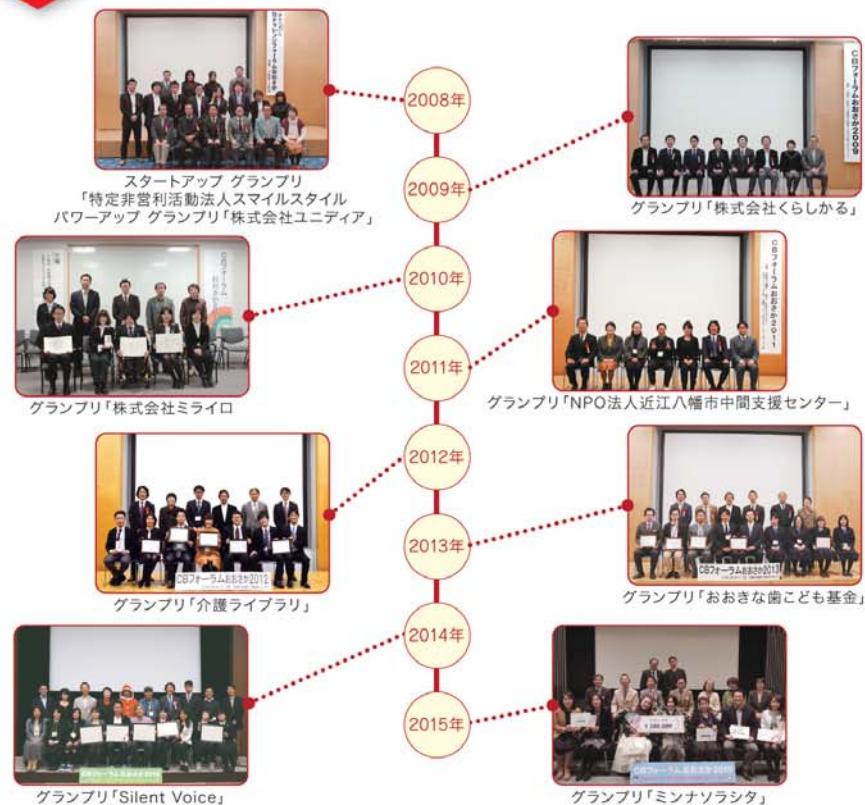
受賞事業者における法人格の割合



受賞事業者における所在地の割合



## 写真 見る ソーシャルビジネスプランコンペ 歴代のグランプリ団体





## 志民ファンド ～市民社会創造基金～

2006年CSOへの新たな資金供給のしくみとして、社会投資家の寄附による1,000万円を基礎財産として市民社会創造基金(志民ファンド)を創設しました。

市民社会創造基金の原資は、CSOを支援したいという「志(こころざし)」をもつ社会投資家の寄附によるものです。そして、社会投資家が直接、社会起業家の事業計画を聞き、社会投資家の起業経験、経営実践により得られた知恵(実践知)によって、審査を行います。

従来の助成制度と異なり、

- 1) 社会投資家が直接審査を行うこと、
- 2) 社会的課題解決を目的とするならば法人格の種類を問わないこと、
- 3) 助成だけでなく融資、投資も可能としたこと、
- 4) 資金供給だけでなく、経営診断、経営支援をセットしたことが特徴です。

2009年よりCBプランコンペ受賞者への助成、2010年内閣府「地域社会雇用創造事業」採択者へのつなぎ融資の実行、2011年東日本復興のための事業活動への助成を行いました。

ファンド運営のあり方を見直すために、募集を一時的に休止しました。

### 【主な支援実績】

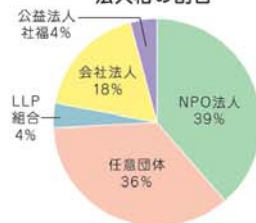
団体名	経営支援内容
(特活) トッギャザー (有) officeばれっと	福祉授産施設の商品開発支援、販売支援資金支援 150万円 子育て支援事業収益事業化、フランチャイズビジネス化支援 資金支援100万円
(特活) ノンラベル こどもコミュニティアクア	アスベルガー障がいをもつ青年の就労支援を、資金支援150万円 病児、障害児の小規模統合保育所の移転新築支援 資金支援150万円
(特活) 多言語センターFACIL 映像発信てれれ	多言語・文化関連ビジネス支援 資金支援155万円 映像発信事業の収益事業化支援 資金支援90万円
(特活) ダーナ	障害者自立生活支援暮らしの学校「農楽(の〜ら)」創業支援、資金支援額150万円
(特活) !スタイル (株) 坂ノ途中	障害者就労支援を目的とした飲食店の創業支援 資金支援150万円 小規模有機農家を支える委託販売型店舗事業の創業支援 資金支援70万円

### 表とグラフ で見る 志民ファンド

#### 応募数の推移

	2006年	2007年	2008年	2009年	2010年	2011年
応募数	21	28	31	14	28	32

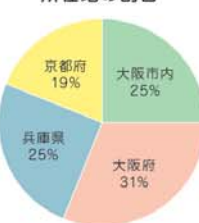
#### 応募事業者における法人格の割合



#### 受賞事業者における法人格の割合



#### 受賞事業者における所在地の割合



# 東日本大震災復興支援

2011年3月11日に発生した東日本大震災の復興支援を目的として、市民社会創造基金より1,000万円を拠出し「(特活)大阪NPOセンター東日本CSO支援資金」口座を開設しました。そして、同口座に義援金を募りました。その資金を復興支援事業活動へ助成しました。2011年4月1日から約1年間、当センター会員及び会員からご紹介を受けた団体を中心に、13団体から応募があり、うち4団体の復興支援事業に助成を行いました。翌年、2012年には「大阪と宮城県亶理地域をつなぐ民・官・産・学復興支援プロジェクト」「志」プロジェクト実行委員会(平成24年度大阪府新しい公共支援事業モデル事業)により津波による塩害を受けた農地の再生支援を行いました。さらに、2012年12月にはCBフォーラムおおさか2012のなかで「東北復興SBフォーラムin 近畿」を開催し、被災地の事業者から復興の状況報告と関西の事業者による復興支援の現状報告を行いました。

団体名	事業概要	支援金額
(特活) ハートフレンド	被災地における被災アルバムの洗浄 *大津波により海水に浸かった写真、アルバムの洗浄(宮城県気仙沼市)	50,000円
和太鼓村松組	被災地における和太鼓演奏(岩手県大船渡市、盛岡市)	450,000円
(特活) 三島子ども文化ステーション	被災児、被災者の心を開放することを目的とした舞台芸術鑑賞、表現ワークショップ(宮城県気仙沼市、仙台市他)	500,000円
(株) マイファーム	しあわせきいろプロジェクト *大津波により塩害を受けた農地へのアブラナ植栽(宮城県亶理町)	4,199,499円

**しあわせきいろプロジェクト ボランティア大募集!**

被災地に希望の花を咲かせよう。

2011年3月11日  
津波による被害を受けた宮城県亶理町吉田地域。  
そこに菜の花の種をまき、希望の花を咲かせてみませんか。

日時: 2011年11月20日11時 現地集合(雨天決行)  
場所: 宮城県亶理町吉田眞賀橋 総面積13ha

お問い合わせ先: 株式会社マイファーム 亶理町(スタッフ) 0120-821-232  
本会への応募先: 社会投資家センター 03-6460-2222  
活動場所: 宮城県亶理町 亶理町社会福祉センター 亶理町(スタッフ) 0120-821-232

主催: 株式会社マイファーム 亶理町社会福祉センター 亶理町(スタッフ) 0120-821-232  
協賛: 社会投資家センター 03-6460-2222



# 事業者インタビュー 座談会



有限会社office hanaの代表取締役  
NPO法人 Co.to.hanaの理事長  
漆原由香利さん

「子どもからお年寄りまで障害のある人もない人も一緒に安心して過ごせる場所をつくる」ことをミッションに、高橋、茨木等でアチバレット事業（ミニ幼稚園）、就労継続支援B型事業やデザイナーズなどに取り組む。



NPO法人 True Colors 理事長  
高橋紀子ちゃん

色覚についてのイベント、研修、講演や色覚補正レンズ・色覚異常体験レンズを通じて、「人が見えている色はそれぞれ違う」という気づきを広め、カラーバリアフリー社会の実現に向けて活動している。



NPO法人 Co.to.hana 代表理事  
西川亮さん

デザインで社会課題、地域の問題を解決するNPO。チラシやウェブサイトから空間まで、ありとあらゆるものをデザインする。みんな農園などのプロジェクトやNPO・NGO対象のデザイン研修も手がける。

## 大阪NPOセンターの支援を得て、新しいステージに挑戦しています。

### 支援を受けるありがたさを実感

▷大阪NPOセンター(以下、センター)と関わるきっかけや、これまでの支援内容を教えてください。

**漆原** 2006年の志民ファンドがきっかけです。いろんな世代が集える場を作りたくてカフェ事業を提案し、選んでいただきました。その時に、まず既存事業を見直していきましょう、ということで1年間を通して支援していただいたのが最初です。

日々の仕事に追われ目の前のことしか見ていませんでしたが、私が抱えている仕事を書き出すことなど提案していただき、私以外の人でもできる仕事は手放していくことで自分に余裕ができました。また、利用者も増え、事業が伸びるきっかけがいただけました。

**高橋** 2011年にNPO法人を設立した頃は、人口の5%にあたる色覚に問題がある人に対して、色覚補正レンズの存在をどう伝えるかばかりを考えていました。今思えば、どこに向かって何を言えいいのかわからなかったのだと思います。大阪NPOプラザが閉鎖されて事務所はなくなるし、どうしていいか困っていた時に、「センターに相談すればよい」と教えてもらい、翌日すぐに相談に行きました。

事務局相談で話を聞いてもらっているうちに、私たちの活動は、5%ではなく一般色覚の95%の方々に向けて「安心安全な色使いの社会(=カラーバリアフリー)」について発信していけばよいのだ、とわかりました。それ以来、アドバイスをもらうだけでなく、イベントやソーシャルビジネスプランコンペに声をかけていただきました。センターと出会うことでどんどん新しいことにチャレンジできています。

**西川** 僕は、Co.to.hanaを立ち上げて間もなく、センターに相談していました。3年くらい前から学生のインターンシップ受け入れや視察プログラムで交流させてもらっています。今は、センターからの紹介で金融機関の商品パンフレットを制作したり、国交省の調査事業に取り組んでいます。特に、調査事業は初めてのことでセンターにアドバイスしてもらいながら進めていますが、センターと関わりがなければ、調査事業を提案するという発想はありませんでした。金融機関とも、僕らだけなら直接仕事を受けることはなかったと思います。自分たちでは気付かない仕事を得る機会や新たな事業展開の可能性をいただいています。

**高橋** それは私たちも同じです。行政との協働事業に取り組んだ際に、今まで接点のなかったNPOや大学とコラボする機会をいただき、新しい視点と今までにはない人とのつながりや行政の委託事業受託という実績も得ることが出来ました。

### アドバイスの中からひらめきが生まれることも

▷センターの支援やセンターとの連携・協働によって組織に変化はありましたか？

**高橋** 社会全体に向けて、安心安全な色使いの社会(=カラーバリアフリー)を作ることを発信したいという考え方に変わったことが大きいです。目標とそこに到達するためのストーリーが明確になって、具体的な展望が持てるようになりました。

**漆原** センターとは2006年からもう10年間の関わりがありますが、事例報告の機会をいただいたり、CB事例としてヒアリングしていただいたり、自分たちの活動を色々な方に知っていただける機会もたくさんいただいています。その度に組織や活動を振り返ることができて、それが次の一歩につながっています。また、他のNPOや志のある事

業者の方々とお会いさせていただくことでの刺激も多いです。

**高橋** ソーシャルビジネスプランコンペに声をかけていただいたのも良かったです。応募するのは大変でしたが、応募申請作業を通して、組織が次にどこに向かうべきか、考えを整理することができました。途中のブラッシュアップも勉強になりました。

### センターの後押しで、常に新しいことにチャレンジできる

▷今後の展望を教えてください。また、その中で大阪NPOセンターに期待することは何でしょうか。

**漆原** 「ポタジェプロジェクトの実現です。小さな農園を軸に、多世代交流の場を作り、子どもに限らず地域の人が誰でも気軽に利用できる食堂も作りたくて思っています。保育・介護人材不足の中、ばれっとの担い手がなくて困っているのに、プロジェクトに関わるボランティアを集めるのは難しいのではという声もありますが、発想を転換して入口を作っていければ担い手が出てくるし、実現可能だと思うんです。

▷発想を転換することは大切な視点ですね。

**漆原** はい。ばれっとには、若いお母さんたちの会員が300人くらいいます。すごい宝を持っていたのに、そこにアクセスできてなかった。もっと発信すれば、いろんなことをやりたい人がいるはず…。そんな魅力ある活動になるよう、センターからヒントをいただけたら嬉しいです。

### 単体では難しい事業も、センターと協働なら実現できる

**西川** とくに資金がない、立ち上げて間もない団体は、広報が後まわしになっているという現状があります。事業がうまく

いったから広報をやるのではなく、広報も事業を作るのと一緒にやっていると、事業が伝わることで会費が集まるとか、利用者が増えるとかすれば、ゆくゆくはスタッフの給料も上げられますから、広報は大事です。

▷広報が得意なNPOも多いですね。

**西川** Co.to.hanaはNPOの情報発信・広報力を高め、支援する組織です。だからこそ、立ち上げ期から様々なNPOや団体と関わっているセンターと一緒に事業を作っていきたいですね。NPOの広報のための助成プログラムを作るとか、研修をするとか、そういうことを協働できればと思います。なかなかNPOで食べていくのは難しいですが、情報発信力や広報力を高めたいNPOと、デザイナーやデザインを学ぶ学生とを繋げていきたい。デザイナーが活躍できるマーケットがそこにはあると思っています。僕らだけではできないので、センターと一緒にやっていきたいです。

### センターとともに、新たな価値の創造を

**高橋** 色覚についての講演や研修の依頼が増えているので、今から講師を養成していく必要があります。色の見え方は、それぞれ違って当たり前と認められる文化、特に子どもたちには個々人の色の見え方の違いに早くから気付き、そして周りの子どもたちも多様性を受け入れる事ができる文化を創っていきたいのです。「色の見え方が違うかな?」「でもそれがあなたの個性ですよ」という、幼い子どもたちに分かりやすい絵本を制作しました。子どもの色覚問題で悩むお母さんに寄り添い、受け止めるサポートも必要です。そういうことを、センターと協働して実現していきたいと思っています。これまではボランティア的な発想でしたが、体験レンズ、補正レンズを活用した講習や、色のカウンセリングなどのビジネスモデルをセンターと一緒にやっていきたいです。





時代の変化を先取りし発信し続けた

## フォーラム

これまで大阪NPOセンターでは、社会課題解決に取り組む事業者が一堂に会しCSOアワードやソーシャルビジネスプランコンペなどの公開選考会および表彰とあわせて、その年の時流や社会の変化に沿ったテーマのプログラムを合わせたCBフォーラムを開催してきました。



CBフォーラムおおさか2008

「これまでのCB これからのCB さらなる飛躍をめざして～ソーシャルビジネスの新たな展望～」



CBフォーラムおおさか2009

最大のCB支援イベント！地域を潤すアイデア満載「地域資源を活用した新たなコミュニティビジネスの展開」



CBフォーラムおおさか2010

「ソーシャルビジネストライアル近畿リーグ」



CBフォーラムおおさか2011

「ソーシャルビジネストライアル近畿リーグ」



CBフォーラムおおさか2012

「共感、感動、湧く湧く。」  
東北復興SBフォーラムin近畿



CBフォーラムおおさか2013

「多様なステージでの参加とつながり  
“来て・見て・感じて・楽しむ！”」



CBフォーラムおおさか2014

「深化と進化で社会課題を解決！」  
～作りたい未来・暮らしたい社会～



CBフォーラムおおさか2015

「ソーシャル抽選会」

その志を、とことん前へ。



阪神大震災、東日本大震災など、未曾有の大災害を契機に、行政が何とかしてくれるという意識から、自分たちのことは自分たちで考え行動する意識が市民に芽生えてきました。

そしてそのことは公共に対する考え方に変化をもたらし、社会を良くしようという「志」を持って、自分のこと以外に積極的に関わるボランティアの精神を持った人々が加速度的に増えてきています。しかし、政府統計などから、「気持ちを持っていても行動に移せない人」が少なからず存在することが明らかになってきています。

その一方、ネットワークがスマートフォンの普及により急速にパーソナル化したことで、個人個人が持つ情報量や発信力は革命的なほど進化した。情報は、人の意識を変えることはできます。しかしその気づきを行動に移すにはさらなる力が必要です。

今こそ私たちは、社会を良くしたいという志を持った人々が、気軽に集うことができる場を作り、それらの人々の交流や意見交換の中で、それぞれのシーズとニーズが化学反応を起こす場所(サロン)を作りたいと考えています。この場所は、想いを持った人が自由に夢を語り合い、協

力しい、共に勉強し、自己を高め、社会をより良くする行動につなげることができる場です。

そこで紡がれる志を、センターの今まで培ったネットワークがクラウドになって大きく包み込み、一歩踏み出す行動力を培います。

まさに、今までの既成概念を超えた、新しい市民活動の発信地となるのです。

ここ北浜にはかつて大阪証券取引所がありました。その設立者である五代友厚は、「凡そ成功の岐る所は僅かに一歩の差なり。一歩先んじて進む者は成功し、岐る者は不遇を喫つ。故に人は常に機を見るに敏にして進退を諒らざることを要す。」という言葉を残し、チャレンジスピリットの大切さを私たちに伝えてくれています。いまこそ私たちは、五代のチャレンジスピリットを、想いを持っている人々に伝え、目指すべき市民社会に向かって力強く歩んでいかなければなりません。

一人一人の心を紡ぎ、想いを行動に変えることを通じて、新しい時代の人材と、今までにない様々な価値が含まれた成果を生み出す場所が、「北浜サロン」です。





# ACCESS MAP

## 大阪 NPO センターのご案内



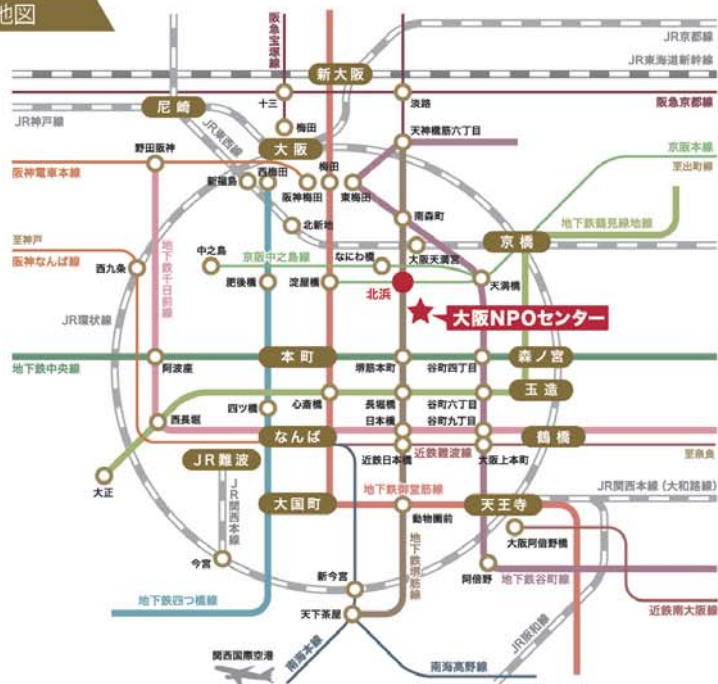
### 地下鉄堺筋線でお越しのお客様

- 1 「北浜」駅下車
- 2 5番出口へ
- 3 階段を上がり、大通り(堺筋)を下る
- 4 「すき家」を通り過ぎ、
- 5 コンビニエンスストア「セブンイレブン」の看板を確認
- 6 「セブンイレブン」が入ったビルの5Fがセンター

### 地下鉄御堂筋線でお越しのお客様

- 1 「淀屋橋」駅下車
- 2 8番出口へ
- 3 東へ直進「膳方ビル」「トレードピア淀屋橋」の方向
- 4 「南都銀行」の前の大通り(堺筋)を下る
- 5 「岡安証券」の看板を確認、前方の信号を渡る
- 6 コンビニエンスストア「セブンイレブン」の看板を確認
- 7 「セブンイレブン」が入ったビルの5Fがセンター

## 広域地図



最後に、大阪NPOセンター20年誌を制作するにあたり、これまでの活動を振り返りながら、本当にたくさんの方々にお世話になったことを実感しております。これまで大阪NPOセンターを支えて下さった皆様にはこの場を借りて御礼申し上げます。

Osaka NPO Center 20th Anniversary

発行：2016年11月

取材：如月オフィス 川畑 恵子 (P9-10・P17-18)

撮影：TPworks 佐藤 豊浩 (P1・P9-10・P17-18)

モデル：YUMENA/KAREN

編集・デザイン/印刷・製本：株式会社内藤印刷所

発行：認定特定非営利活動法人大阪NPOセンター

STAFF：堀野 亘求

大友 康博

中出 三千子

高見 理恵

大前 藍子

石地 恵里子

榮 泰隆

小原 忠義

岩崎 里香

〒541-0046 大阪市中央区平野町1-7-1 堺筋高橋ビル5F  
Tel:06-6223-3303 Fax:06-6223-3306  
E-mail: info@osakanpo-center.com